

[報告]

中等教育研究センター 2014年度活動報告

大 谷 尚
田 中 眞 帆

名古屋大学中等教育研究センターは、名古屋大学大学院教育発達科学研究科における中等教育研究の蓄積の上に立ち、高等教育の充実のために中等教育をどのように改善していくかについて、先導的な実験研究開発を行い、理論的・実践的研究成果を発信していくことを目的としている。本年は、「1. 学びの杜・学術コース」、「2. 中津川プロジェクト」、「3. オープンクラス」、「4. センター紀要発行」を主たる活動として進めてきた。

それぞれの概要を以下に示す。

1. 学びの杜・学術コース

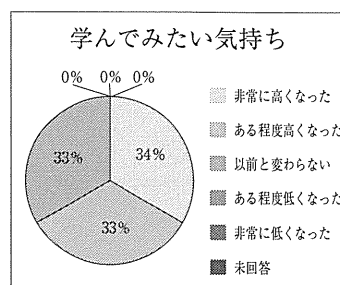
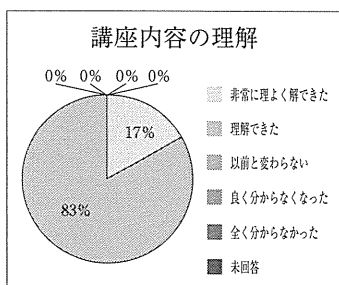
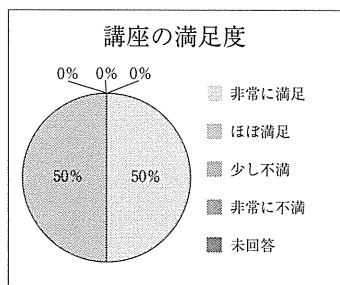
「学びの杜・学術コース」は、学問研究の最前線で活躍する名古屋大学を中心とする研究者たちが、高校生を対象に、それぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについて、わかりやすく解説し、知の探究の楽しみと厳しさを体験してもらうという目的で開設された「学術的な探究講座」である。高校生が大学レベルの高度な「学び」を体験することにより、各自の適性や、興味・関心を育み、将来のビジョンを広げ、キャリア・デザインの形成へと発展できるように企画されている。

今年度は、「物理学探究講座」「人間発達科学探究講座」「生命科学探究講座」「地域包括ケア探究講座」「人文学探究講座」「地球市民学探究講座」「インフラ工学探究講座」の7講座が開講された。このうち、「物理学探究講座」「地球市民学探究講座」「生命科学探究講座」は、名古屋大学教育学部附属中・高等学校が主として企画と実際の運営を行なった。

以下に、それぞれの講座後に行ったアンケートの結果を記す。複数回、複数コースに渡って開講された講座の受講者数については、総計を記す。その際、上記のように附属中・高等学校が企画・実施した「地球市民学探究講座」「生命科学探究講座」についても、本年度は扱っている。

なお、今回も、昨年度と同様に、大学で志望する学問領域との関連と本学への志望との関連についてもたずねており、この講座への参加と大学進学への志望との関連についての把握を試みた。

<物理学探究講座> 受講者：12人



○講座の満足度

相対性理論など高校では学習することがない内容を、受講生の既習知識にあわせて噛み砕いて説明されたため、満足したという意見が多かった。

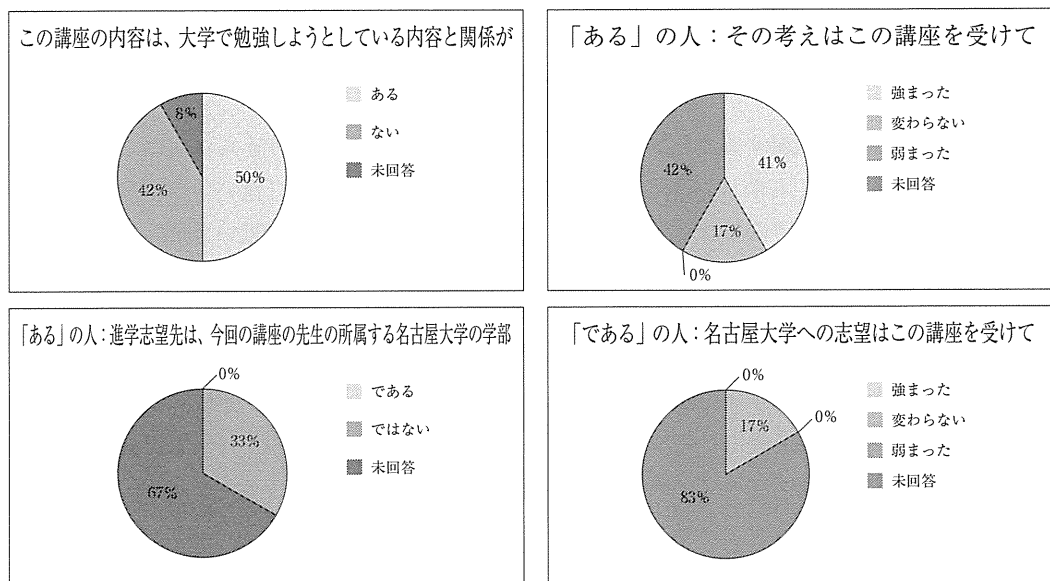
○講座内容の理解

身近な生活にも物理学の知見が応用されていることへの驚きや、現代の科学でも解明できていないことが数多くあるので、自分自身も将来研究してみたいという意欲的な意見が書かれていることが多かった。

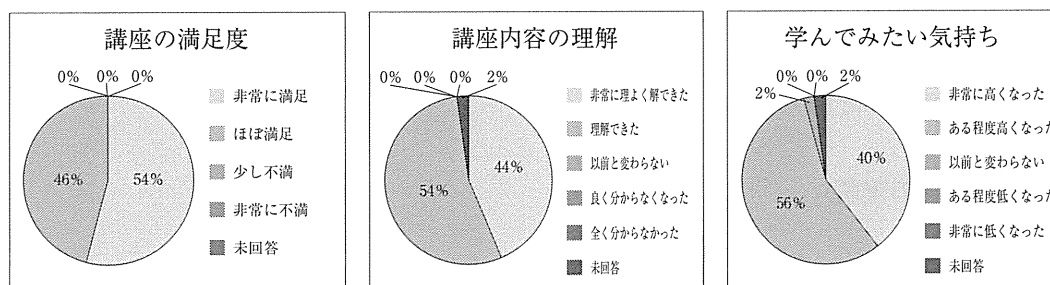
○将来学んでみたいという気持ちの変化

講座中で取り上げられたブラックホールについての内容の印象が強かったためか、将来的に天文学を学んでみたいという気持ちを書いた回答が見られた。高度な内容に触れ、物理学そのものに対する興味が深まったという意見も出ていた。

○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



<人間発達科学探究講座> 受講者：32人



○講座の満足度

・ 1 コース

「教育格差」の現状とその背景、それに対する対策など、普段の授業やニュースなどでは知ることのできない知識が新鮮だったようである。子どもの教育には保護者の所得も関係していること、貧困で教育が受けられない子どもが日本に想像以上に多くいたことに、驚きを覚えた生徒が多かった。生徒にとっては新鮮な知識ただけに、それを踏まえて考える時間が欲しかったという声も聞かれた。

・ 2 コース

国外の多様な学校形態を映像で見たことで、日本の教育を客観視することや、学校の形は様々あり、現代社会の変化に合わせた多様な教育方法があることを学んだという声があった。また、「こ

んな学校に行きたい」というディスカッションによって、同じ日本で教育を受けて来ても、その捉え方は人によって異なることを知ったという意見もあった。

・ 3 コース

グループに分かれて活動することで、様々な意見の交流と、多様な角度から学ぶことができたため、満足度は高かった。しかし、調べ学習の時間を少なく感じたようで、深い学びを求めている生徒にとっては、やや物足りない様子であった。また、生徒にとって、年の近い大学院生による発表も刺激になったようである。

・ 4 コース

他者の意見を聞きながらテストを作り、解いてみるというグループワークが好評であった。この活動を通して、誤答を作ったり、理解を問うたりする問題を作る難しさや、作り方次第で解答者の様々な力を測ることができるテストの機能を学べたことが印象に残ったようである。

・ 5 コース

他校の生徒と多くのディスカッションが楽しめたことが良かったという意見がいくつも見られた。特に生徒の興味を引いたのはストレスについての話題で、ストレスの感じ方も解決の仕方もそれぞれであること、負の面もあるがそれを解決することを通して成長できる正の面があることなどが分かったと書かれていた。ただ、個人的に心理学について学んだことがある生徒からは、既存の知識と重複していたという声もあった。

○講座内容の理解

・ 1 コース

生徒達は、教育について考えること、そして平等に教育の機会が与えられることはより豊かな社会の実現に不可欠であり、それを保障する法や行政の整備が重要だと感じたようである。また、彼らと同世代で苦しんでいる人たちの存在を知り、貧困をより身近に感じるようにもなったようである。

・ 2 コース

社会の変化に合わせて、フリースクール、ホームスクールなど様々な学校形態が増えたため、学校のあり方が今一度問われていると感じた生徒の意見があった。教育に対する価値観がそれぞれであるように、一人ひとりにあった教育もそれぞれであると考え、自分にあった教育を受けられる学校形態の多様化の実現を期待する声もあった。

・ 3 コース

本講座を通して、相手を知ることによって理解が深まり、ニュースなどの断片的な情報でもって

いたステレオタイプのイメージが、いい意味で覆されたようである。そのため、グローバル化によって国同士の交流が深まっているため、それぞれの宗教や文化について十分に理解する必要があることを、より実感した様子であった。

・ 4 コース

生徒達は普段テストを受け、その結果について考察される経験は多かったが、テスト自体も評価する必要があることに驚き、物事の見極めの面白さや深さを知ったようである。心理学に対して明確なイメージを持っていなかった生徒は、本講座によって具体的な学問内容を知り興味を持っていた。

・ 5 コース

自らのストレス、ストレッサーとうまく関わっていくこと、また悩みや苦しみを抱える友人にリラクゼーション法を教えるためにどうすればよいかなど、実生活における人間関係と直接的に関連させて理解していた生徒が多かった。

○将来学んでみたいという気持ちの変化

・ 1 コース

貧困と教育の関係を知ることから、発展途上国での教育について学んでいきたいという意見、子どもの貧困について現場の教員として出来ることを探したいという意見、教育だけでなく看護や法律の面から多角的に考えてみたいという意見など、個人の興味や関心のある分野に引きつけて捉えている意見が多く見られた。

・ 2 コース

本講座では海外の学校の映像が流されたため、日本の教育を相対的に眺めることが出来たようである。そのため、海外の教育の仕組みや、学校制度から学べる点は何かを知りたいという意見、人間がより良い教育を受けることのできる環境整備のために何が必要か学びたいという意見があった。

・ 3 コース

生徒達にとっては、宗教はこれまで分かりにくく近寄りがたい存在であったようであるが、本講座によってどのような宗教や教えの解釈があるのか調べてみたいと関心を持つようになっていた。さらに、異文化、異宗教間で協力し合っていくために、世界各国の文化や歴史を知り、そのうえで日本および世界でどのような教育が求められるか学びたい、という意見があった。

・ 4 コース

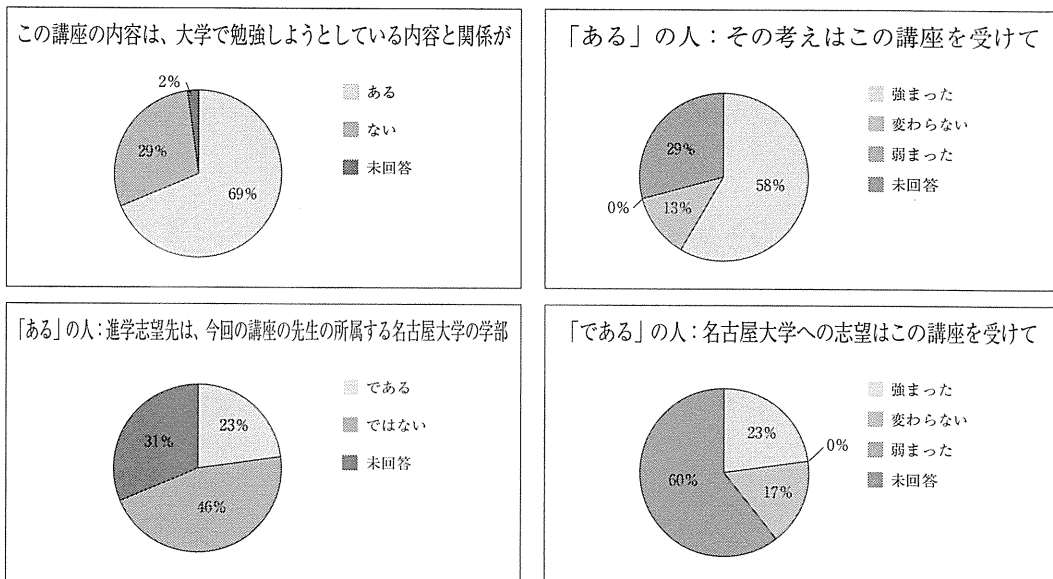
実際にテストを作った活動から、テスト作成者の知りたい解答者の力をより正確に測るためには、

どのようなテストが有効かを考えてみたいという意見や、項目分析をしてみたいという意見、統計的処理によって人間の心理を測定し、より深く理解したいという意見があった。

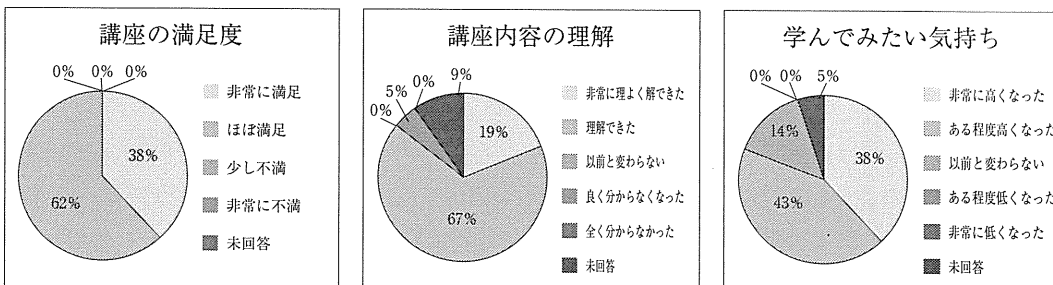
・ 5 コース

人間の成長における「心」の役割、一人ひとりの心のあり方がどのように社会に影響を及ぼすのか、心理行動と脳はどのように関係するのか、といった講座で学んだ内容をさらに深めたいという声が多かった。中には、精神看護学を学びたい、産業カウンセラーに関わる学びがしたいなど、具体的な内容を想定している意欲的な意見も見られた。

○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



<生命科学探究講座> 受講者：21人



○講座の満足度

内容が難しいと感じる意見があったものの、実際に博物館に行くといった体験が多く、内容も石

器と人類の進化、骨の形から恐竜の姿勢の推測、発光生物など多岐に渡るもので、満足度は概ね高かった。

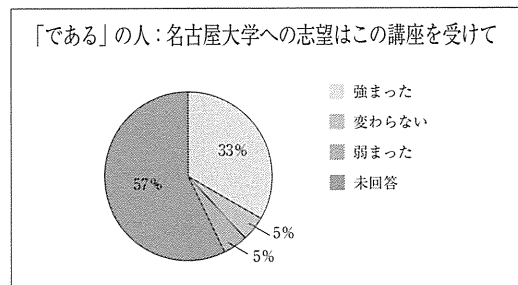
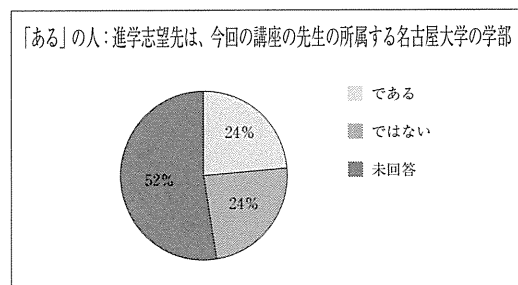
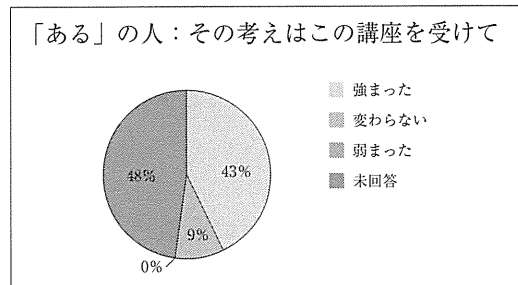
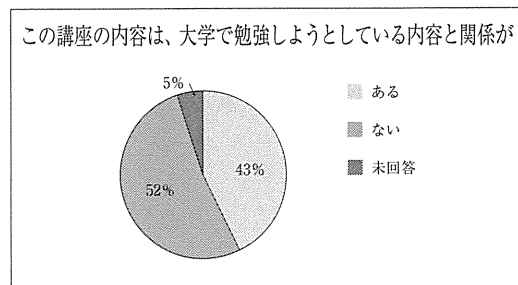
○講座内容の理解

心とは何か、植物の品種改良が必ずしもメリットばかりではないなど、身近な事柄をもとに、これまでの自らの考えをさらに深めていこうとする姿が見られた。身近なことであっても知らないことや明らかになっていないことは多くあること、さらにその気になったことや疑問を、何もないところから追究していく研究活動への驚きを表すコメントもあった。

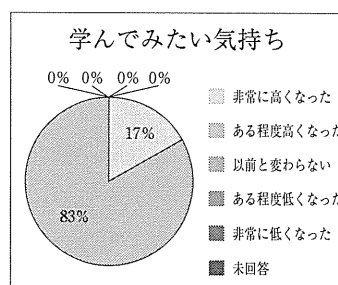
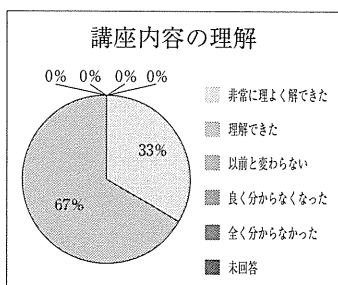
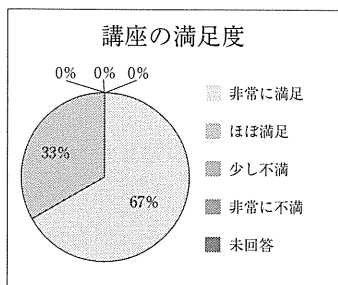
○将来学んでみたいという気持ちの変化

人体の仕組み、生命と栄養、物事をどう感じ考えるのか、性格はどのように決まるのかなど人間の生命活動について興味を持った生徒が多かった。他にも、人間の営みとして考古学に関心を示した生徒もいた。

○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



<地域包括ケア探究講座> 受講者：8人



○講座の満足度

将来的に看護師になることを志望している生徒の受講が多かったため、実際に在宅医療を受けている患者の方の家を訪問したことが大きな印象として残っているようである。訪問時に喜んでもらえたり、直接話を聞ける機会があったりしたことなどが講座への満足度にもつながったようである。

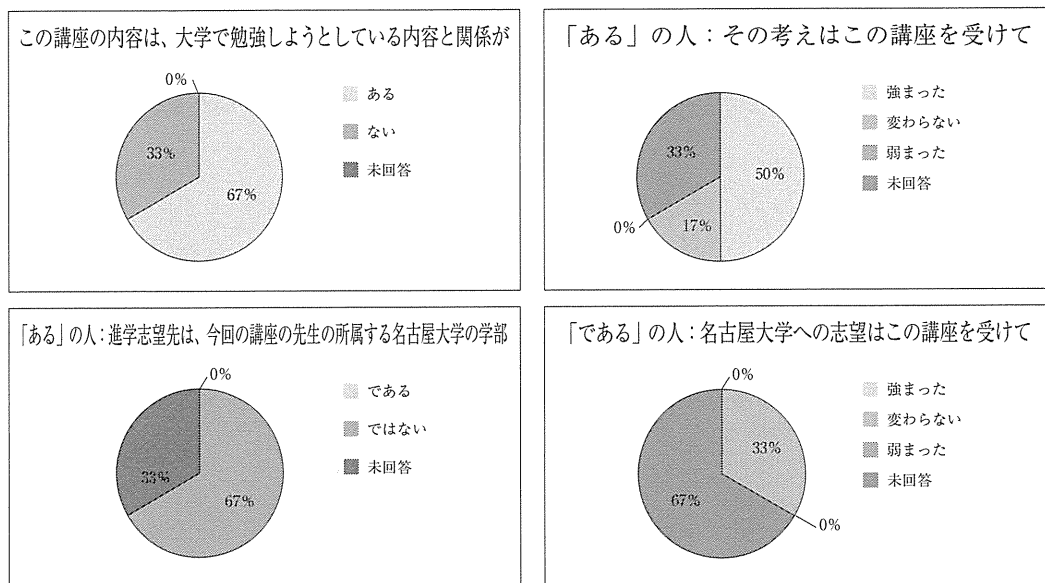
○講座内容の理解

患者中心の考え方に触れることによって、講座内容の理解がさらに深まったようである。患者の方の意思を尊重して医療従事者がケアをしていくのは勿論であるが、高齢化が進むなかで地域全体が助け合える関係作り、様々なケースに応じた医療のあり方を考えるなど、真剣な思いが伝わってくる意見が多く見られた。

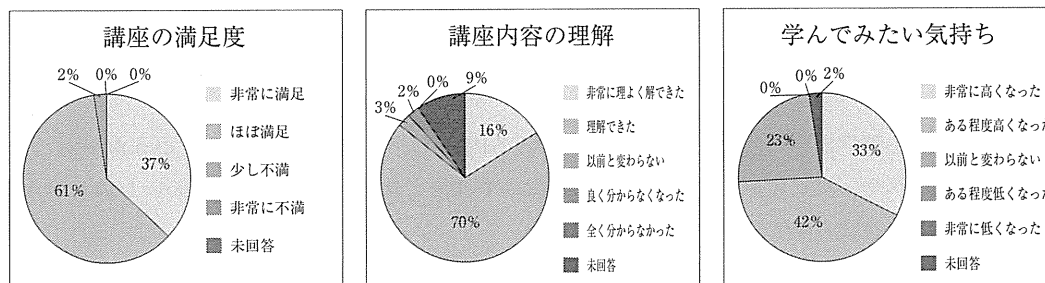
○将来学んでみたいという気持ちの変化

患者との信頼関係に基づくケアのあり方、医療従事者間の連携、また患者と医療従事者をつなぐコミュニケーションの取り方など、実際に現場に赴くことを想定した内容をさらに学び深めたいという意見が多く出た。

○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



<人文学探究講座> 受講者：36人



本講座は、「感情をつむぎだす脳」(心理学)と「『星の王子さま』の秘密—外国文学を原語で読む楽しみ」(フランス文学)が7月28日に、「歴史的に英語の仕組みを探る」(英語学)「星条旗誕生の謎」(西洋史学)が7月29日に行なわれた。

○講座の満足度

・ 7月28日

遺伝である程度決まっているものの、感情はコントロール出来る、という内容が印象深かったという声が多かった。また、『星の王子さま』も人気の高い作品であり、翻訳の過程で原語のニュアンスに近付けるという訳者のこだわりに興味を持つ生徒もいた。

・ 7月29日

具体的な資料の提示が興味を引いた様子であった。言語は一つの国で出来上がるのではなく、時代の流れに乗って、他の言語と合わさったり、分裂したりすることによって出来上がっていくことが印象に残っているという意見が見られた。また、国旗にまつわる歴史が真実ではなかったということに驚いた声もあった。しかしながら、座って話を聞いている受動的な時間が長かったことに対する不満も見られた。

○講座内容の理解

・ 7月28日

本講座で得た知識を生かして、集中を高めたり、緊張を解したり、実生活に取り入れてみようとする意見も見られた。また、「星の王子さま」は当時の世相を反映しているということから、文学のもつ社会性だけでなく、フランス語やフランス文学そのものに興味を持ったという意見があった。

・ 7月29日

英語の歴史を学んでいく中で、いくつかの言語の由来が同じであるということが意外だったようだ。また、言語だけでなく、その言語を用いる諸外国の歴史を知る大切さに気付いたという声が聞かれた。また、歴史として言い伝えられていることは必ずしも真実ではないが、言い伝えが出来上がっていく過程そのものも歴史になることが興味深いという意見もあった。

○将来学んでみたいという気持ちの変化

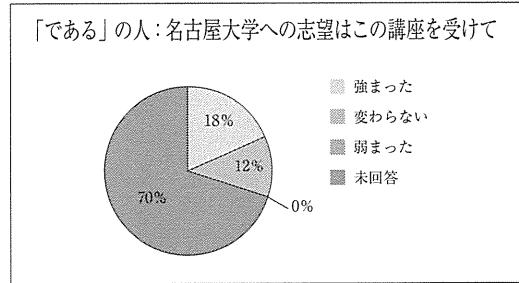
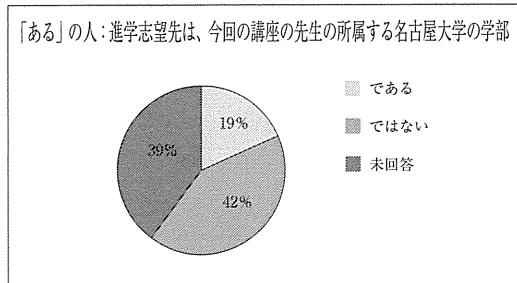
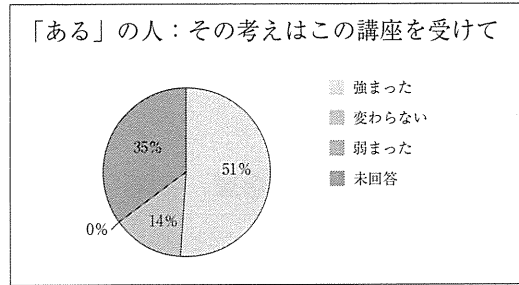
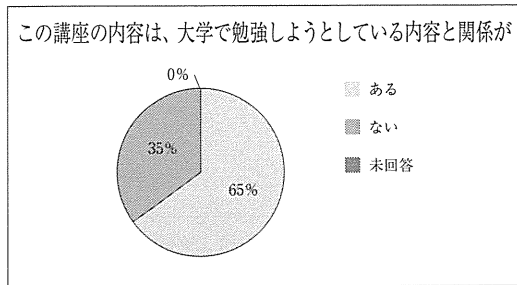
・ 7月28日

文学部でも心理学を学べることを知り、多岐に渡る内容を学べることを知ったという声があった。訳書の読み比べや、実際に原語で読むことで翻訳本では伝えきれないことまで味わいたいという文学に対する強い意欲を感じる意見も書かれていた。

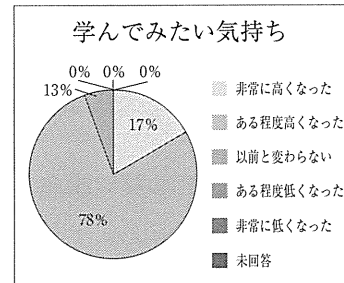
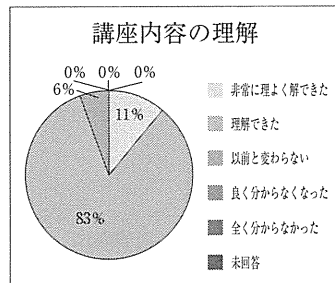
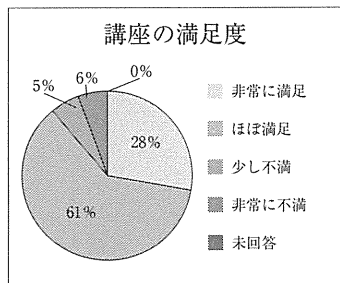
・ 7月29日

もともと英語に興味があった生徒の意見に、歴史を知ることでさらに好きになり、英語力を高めるために学んでみたい気持ちが強まったというものがあった。さらに、英語に限らず様々な言語のルーツが知りたいと、興味の幅を広げている生徒もいた。

○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



<地球市民学探究講座> 受講者：18人



○講座の満足度

モンゴル、インド、タイなど具体的な地域に着目し、疫学、伝染病、エネルギー問題、宗教的な考えで起こる対立など様々な角度から人と世界を考えていく講座であった。座学が中心で、生徒からはグループワークなどで自分たちの意見を交流させる機会を望む声が聞かれた。

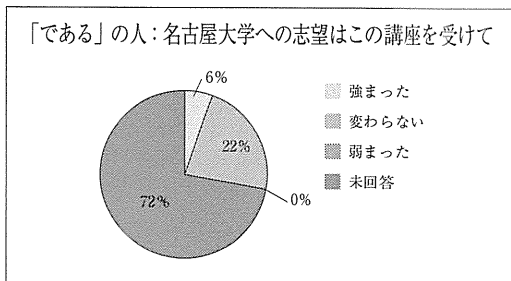
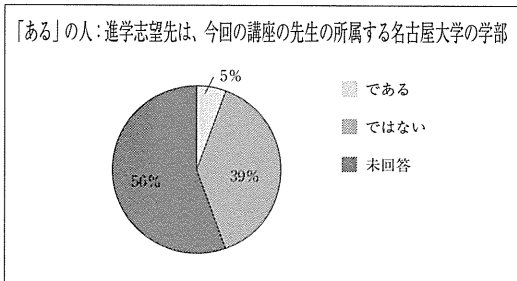
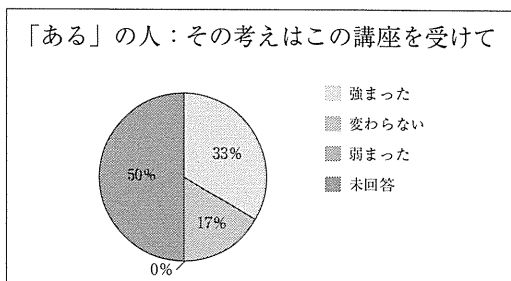
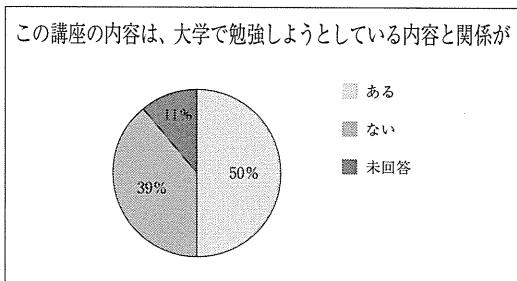
○講座内容の理解

多様な地域が取り上げられたこともあり、地球上には様々な考えを持った人々が共生していること、あらゆる出来事が相互に影響し合っていること、他国をステレオタイプのイメージでとらえていたことなどへの気づき、視野の広がりがうかがえた。

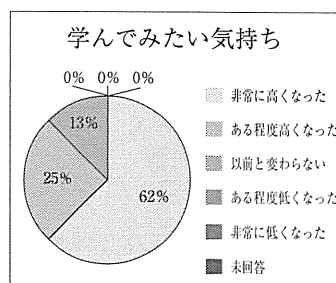
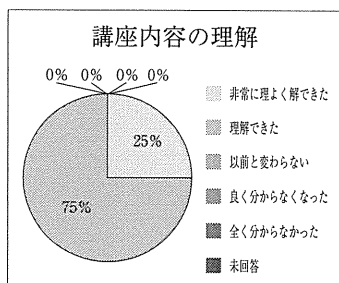
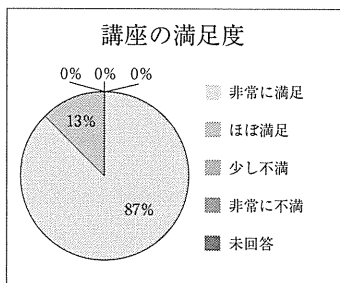
○将来学んでみたいという気持ちの変化

講座を通して世界と日本のかかわりについて興味を持ったという意見がいくつかあった。その視点は、各国の歴史と思惑について、世界の宗教やその問題など、講座受講前よりも踏み込んだものとなっていると推察される。

○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



<インフラ工学探究講座> 受講者：7人



○講座の満足度

本講座では、講義による説明を受けた後、普段目にすることが出来ない橋のひび割れの見学や、ハンマーによる構造物内の空洞の発見などを実習で経験した。講義によってある程度理解が出来た後で、具体物を見ながら解説を聞くことによって、満足度が高まったようである。

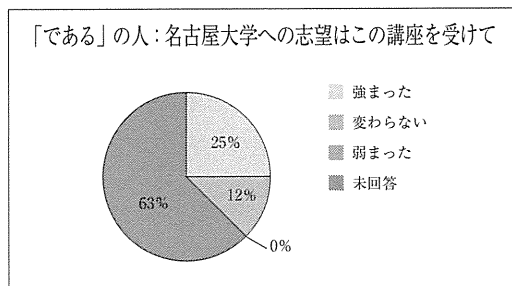
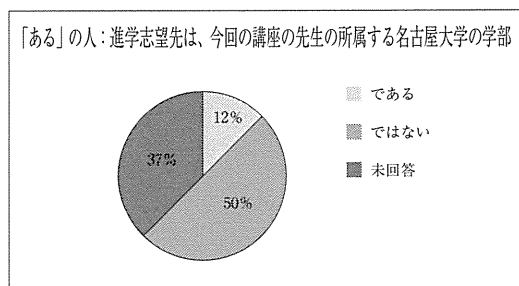
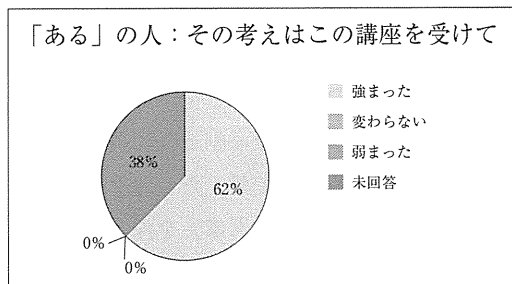
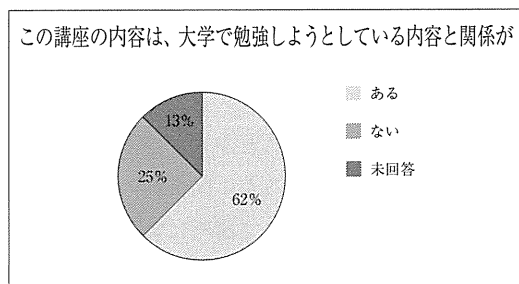
○講座内容の理解

日本国内の橋のほとんどに補修が必要であること、国道はおろか県道や市道の補修も追いついていないことなど、身の回りに思いもよらない危険が潜んでいることが強く印象に残っているようであった。そのため、構造物を「創る」だけでなく「維持」する難しさ、そしてそれを支える修復技術の大切さを感じたという意見が寄せられた。

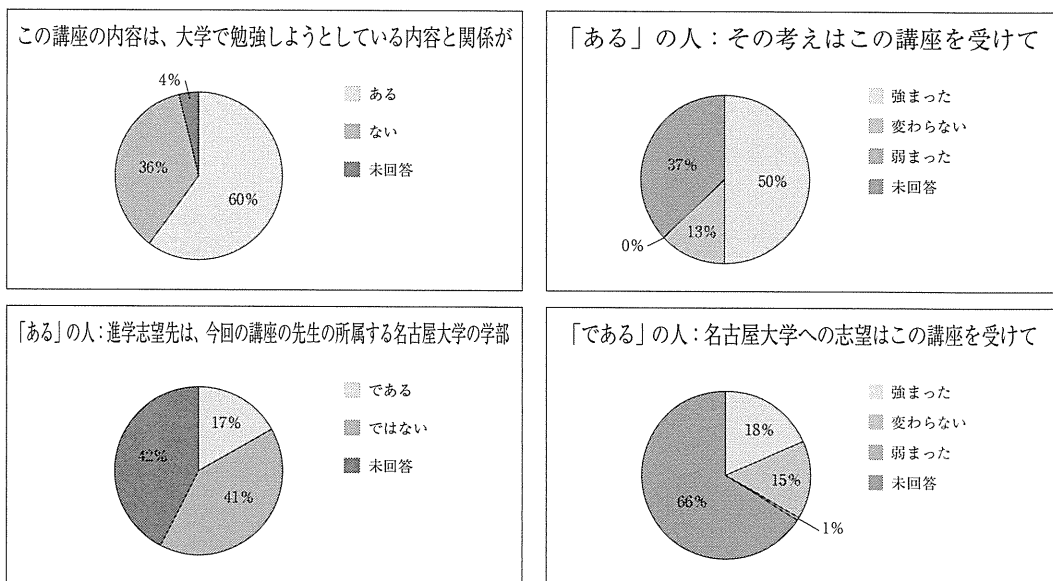
○将来学んでみたいという気持ちの変化

本講座での内容から、構造物を点検し、維持することだけでなく、構造力学にも興味を持った生徒が見られた。また、構造の維持と表裏一体の関係であるものの壊れ方にも目を向けたいという意見も出た。日本は自然災害が起きやすいということもあり、津波や震災の対策を学びたいという考えも挙げられた。

○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連



○講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連（総計）



全体として、ディスカッションの機会を期待していた生徒が多かったことから、参加する生徒たちは自らが講座を聞いて学んだこと、考えたことを発表することはもちろん、同世代の他者の意見に関心を持ち、そこからも考えを深めていこうという学び合う姿勢を持って講座に参加していることが分かった。また、学術的内容と身近な生活との関連が示されていると、生徒の理解も深まり、講座が扱う内容そのものへの興味関心にもつながっているようであった。

また、講座の内容と進路希望、名大への進学意欲との関連においては、広く大学の知の体験ということで呼びかけていることもあり、必ずしも大学で学びたいことではなくても参加したという生徒が40%近くいた。講座の内容と大学で学びたい内容が関連している生徒にとっては、半数がさらにその進学意欲を強くした。

2. 中津川プロジェクト

高大連携教育プログラム（短期集中型）中津川プロジェクトは、2014年度も、東海地区国立大学共同中津川研修センターにおいて、2014年8月5日（火）～8月7日（木）の2泊3日で実施された。参加生徒は附属高校1年生24人、2年生15人の計39人であり、内容は以下の通りであった。

企画1 1日目午前・午後 「自然に学ぶ、五感で学ぶ、体験して学ぶ」車中～中津川市鉱物博物館～中津川センター

PhD 登竜門 足立守 先生

企画2 2日目午前 「車中～中津川市鉱物博物館～中津川センター」

環境学研究科 小松尚 先生

企画3 2日目午後「花子さんと在宅医療～患者中心医療（patient centered care）をみんなで考えよう！」

医学系研究科 安井浩樹 先生・阿部恵子 先生・末松三奈 先生

企画4 3日目午前「ブラック企業の問題を考える」

法学研究科 和田肇 先生

3. オープンクラス

2005年から開始した、附属中・高等学校の授業を学内に向けて公開する事業である「附属学校オープンクラス」では、例年、秋の一週間にわたり、附属中学と高校の授業を学内に公開してきている。

2014年度は、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）運営指導委員会とSSH研究成果発表会で学内外に向けて授業公開を行った。これをオープンクラスと位置づけ、独立した企画としてのオープンクラスは実施しなかった。

名古屋大学の知を高校生に

2014



2014年度 豊かな人間形成のための

対象：高校生／受講無料

学びの杜・学術コース

- 生命科学探究講座
- 地域包括ケア探究講座
- 人文学探究講座
- 地球市民学探究講座
- コンピュータ活用探究講座
- インフラ工学探究講座
- 物理学探究講座
- 人間発達科学探究講座

【学問の世界を知り、創造的な学びの力を育む】

「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の教員を中心として、学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、高校生のみなさんを対象に、それぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについて、わかりやすく解説し、知の探究の楽しさと愉しみを体験してもらうという目的で開設された本格的な「学術的な探究講座」です。大学レベルの高度な「学び」を体験することにより、高校生の皆さんが、各自の適性について、また興味や関心について育み、将来のビジョンを広げたり、キャリア・デザインへと発展したりできるように企画されています。ぜひ、ご参加ください。

学びの杜・学術コースの特色

1. 大学における専門的な学びを体験することにより、自分の適性や興味・関心について考えるきっかけを得ることができます。
2. 問題発見と解決型の学習を通して、大学での学びの基礎となる多角的な科学的思考力やリテラシーを育むことができます。
3. 最前線で活躍する研究者や同じ目標をもつ仲間との学び合いを通して、幅広い学びのネットワークをつくることができます。
4. 将来に向けて自分のキャリアを自覚的に選択する第一歩を踏み出すことができます。

主催：名古屋大学大学院教育発達科学研究科中等教育研究センター（CSES）
<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/manabinomori.html>

受講申し込みについて

申し込みは、①受講希望講座名（人間発達科学探究講座はコース名、人文学探究講座は日にち、地球市民学探究講座、生命科学探究講座、物理学探究講座は受講希望回を明記）②学校名 ③学年 ④氏名（ふりがな）⑤住所 ⑥電話番号 を明記し、下記のメールアドレス宛へお願いします。

※申し込みが多数の場合は、各講座の申し込み締め切り後、抽選をおこなう結果を連絡します。 ※会場・場所については、受講許可の案内通知の中でお知らせします。

※申し込み方法は、中等教育研究センターのホームページにおいても掲載されていますので、ご参照ください。 <http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/manabinomori.html>

※申し込み確認や受講確定等の通知をメールで行いますので、下記のメールアドレスから必ず受信出来るようにしておいてください。

申し込み・問い合わせ先

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院教育発達科学研究科中等教育研究センター
cses@educa.nagoya-u.ac.jp

物理学探究講座 SSH

名古屋大学教育学部附属高校 スーパー・サイエンス・ハイスクール授業の一般公開

今日、科学的に広く受け入れられている宇宙の誕生と進化は、相対論、量子論により発展してきました。第1部では「特殊相対性理論」について、第2部では「宇宙論と量子論」について、第3部では「ブラックホール」について学びます。

定員：若干名

申し込み締め切り：6月20日(金)

担当部局：理学研究科

日 時	担当教	テーマ	概要
第1部：特殊相対性理論			
1 6月24日(火) 16:50-18:50	齊田浩見 (大同大学)	特殊相対性理論の基本原則と、同時刻の概念	この宇宙そのもの(ブラックホールなども含む)の姿や成り立ちを解明することは、現代物理学の大きな目標の一つです。そして、宇宙を研究し理解していく上で欠かせない物理学の理論に、特殊相対性理論と一般相対性理論があります。 1回目から5回目の講義で、特殊相対性理論を解説します。特殊相対論によって、例えば、こんなことが分かります： ○速く運動する人ほど時間がゆっくりに進み(時間の遅れ)、その人の速さが光の速さに近づくほど時間の流れは止まっていく。 ○一本の棒が速く運動するほど長さは短くなり(ローレンツ収縮)、棒の速さが光の速さに近づくほど棒の長さはゼロになっていく。 これらの現象を理解するために必要な数学は、直線と双曲線の方程式です。直線と双曲線の説明もしながら、特殊相対論の講義を進めていきます。 そして、6回目の講義では、一般相対性理論の雰囲気話します。まず、等価原理という実験結果に基づいて導入される、曲がった時空という考え方を説明します。次に、それを把握するための基礎となるアインシュタイン方程式の意味を可能な限りイメージ的(図解的)に説明します。そして、講義時間が足りれば、アインシュタイン方程式から分かることの一つとして、ブラックホール時空の概要も話したいと思います。
2 6月28日(土) 14:00-16:00		「距離」の概念の重要性と、ミンコフスキー時空	
3 7月5日(土) 14:00-16:00		「時間の遅れ」と「ローレンツ収縮」	
4 7月8日(火) 16:50-18:50		ローレンツ変換、速度合成則	
5 7月12日(土) 14:00-16:00		質量エネルギー	
6 7月21日(月) 14:00-16:00		一般相対性理論の雰囲気(等価原理、曲がった時空、アインシュタイン方程式の意味)	
第2部：宇宙論と量子論			
7 7月23日(水) 14:00-16:00	南部保貞 (名古屋大学)	重力の物理学と宇宙論(一般相対論を用いた宇宙の進化)	現在の宇宙論によれば、我々の宇宙はある法則に従って膨張しており、その膨張則を表しているのがアインシュタイン方程式であると考えられています。本講義では、様々な宇宙の観測事実をこの方程式がどのように説明するのかを解説し、さらに量子力学を組み合わせることで宇宙そのものの始まりがどのように理解されているのかを紹介します。
8 7月25日(金) 14:00-16:00		宇宙の始まりの解明に向けて(量子力学と初期宇宙)	
第3部：ブラックホール			
9 8月26日(火) 14:00-16:00	高橋真聡 (愛知教育大学)	ブラックホールの作り方(星の進化と元素合成)	宇宙の“アリ地獄”とも言える「ブラックホール」について紹介します。ブラックホールが存在すると、その強い重力によって時空が歪められ、様々な不思議な現象が起こります。ブラックホールはどのようにして形成されるのでしょうか？また、それはどのように確認(観測)されるのでしょうか？これらの疑問についてお答えしたいと思います。
10 8月27日(水) 14:00-16:00		ブラックホールの探査(時空の歪みと観測方法)	

人間発達科学探究講座

教育と人間発達について探究する5つのコース、『第1コース(生涯教育開発)：子ども・若者の貧困と学び・育ちの平等保障』『第2コース(学校教育情報)：新しい学校のかたち』『第3コース(国際社会文化)：異文化との出会いと自己発見のドラマ』『第4コース(心理社会行動)：人間の行動と心を解き明かす—心理的のものを測る—』『第5コース(発達教育臨床)：ストレスとうまく付き合うために—臨床心理学の智恵袋—』を開講します。

定員：各コース15名

申し込み締め切り：7月4日(金)

担当部局：教育発達科学研究科

※各コース別に募集します。受講希望が多数の場合は、抽選となります。複数のコース選択可。全コースを修了した受講生には「修了証」を授与します。

日 時	担当教	テーマ	概要
第1コース【生涯教育開発】			
1 7月30日(水) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:15	中嶋哲彦 江頭智宏	子ども・若者の貧困と学び・育ちの平等保障	経済・産業のグローバル競争が進展するなかで所得格差が拡大し、この20年ほどの間、相対的貧困の増大・子どもの貧困率の上昇が続いている。経済的困窮は子ども・若者の学びや育ちの悪影響を与えている。国際的にはこの克服が課題とされるが、日本の取り組みは進んでいない。それはなぜなのか。どうしたら、子ども・若者の貧困を克服できるのか。考えてみましょう。
第2コース【学校教育情報】			
2 8月13日(水) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:15	大谷 尚	新しい学校のかたち	私たちが学校というものをイメージするとき、自分たちの通っていた学校や現在通っている学校を思い浮かべます。しかしそれとは全く様子の違う学校もあります。このコースでは、チャータースクール、ホームスクール、フリースクールについて、それらを紹介する映像を見ながら、皆でそれらについて考えようと思います。それを通して、学校とは何か、教育とは何かについて、あらためて一緒に考えてみましょう。
第3コース【国際社会文化】			
3 7月25日(金) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:15	西野節男	異文化との出会いと自己発見のドラマ	現代社会は、グローバル化が多くの問題をもたらしながら加速的に進展していく社会です。このコースでは、言語・文化・宗教的に多様性をもった国や地域の「学校」に注目して、異文化を体験し、次にその体験から自文化を再発見し、自己を表現しながら、相互理解の重要性について考えていきます。
第4コース【心理社会行動】			
4 8月11日(月) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:15	石井秀宗	人間の行動と心を解き明かす—心理的のものを測る—	テストや性格検査の得点は何を表しているのか考えたことはありますか？それらの得点に疑問を感じたことはありませんか？このコースでは、学力や性格など心理的のものを測るということについて、体験的な学習を通して、その意味を考えていきます。
第5コース【発達教育臨床】			
5 8月8日(金) 10:30-12:00 13:00-14:30 14:45-16:15	窪田由紀 森田美弥子 松本真理子	ストレスとうまく付き合うために—臨床心理学の智恵袋—	私たちが生活していく上で、さまざまなストレスとの遭遇は避けることができません。臨床心理学は、心の健康の増進や回復に役立つ知識や技術を研究する学問です。本講座では、今後出会うであろうストレスに備え、一人ひとりが持つ潜在的な力を発揮できるような方法を紹介し、一緒に考えていきたいと思います。

生命科学探究講座 SSSH

名古屋大学教育学部附属高校 スーパー・サイエンス・ハイスクール授業の一般公開

定員：若干名

第1部は「生物多様性から見た生命」について、博物館の先生方から学びます。第2部は「生命を支えるしくみ」について、生命農学研究科の先生方に講義をしていただきます。

申し込み締め切り：6月27日(金)

担当部局：名古屋大学博物館・生命農学研究科

日 時	担当教	テ マ	概 要
第1部：生物多様性から見た生命 場所：名古屋大学博物館 講義室			
1 7月15日(火) 14:00-16:00	西田佐知子	植物から学ぶ生物の多様性	植物は地球上に約28万種いると言われている。なぜこんなに多様なのか？実際の植物を観察しながら、生物の多様性について講義する。
2 7月23日(水) 10:00-12:00	吉田英一	鉱物と生物 —地球上の物質循環と生命	地球上の物質循環と鉱物、生命との関係について、鉱物標本などを用いて講義する。
3 7月23日(水) 13:00-15:00	門脇誠二	石器から見る人類の多様性と進化	過去に存在した多様な人類が残した石器文化について解説し、私たち現生人類の能力や行動の特徴について考える。
4 7月24日(木) 10:00-12:00	藤原慎一	骨の形から復元する絶滅動物の姿	恐竜はどんな姿勢で歩いていたのか？現生の動物の骨や筋肉の特徴から、絶滅動物の姿勢を復元する方法について考える。
5 7月25日(金) 10:30-12:00	新美倫子	骨から学ぶ： 出土骨から見えるもの	遺跡に残っている骨から昔の人の生活を考える。出土した魚骨の分類も行う。
6 7月25日(金) 13:00-15:00	大路樹生	化石から探る生物の多様性	化石を観察し、そこから過去の地球や生命の歴史についてどのような事が分かるのかを解説する。
第2部：生命を支えるしくみ 場所：附属学校第1総合教室			
7 7月30日(水) 10:00-12:00	小田裕昭	食べ物がどうやって栄養になるか	食べたものが身体に取りこまれる消化吸収のメカニズムと、それが生物にとってどのような役割を果たすかについて学ぶ。
8 7月30日(水) 13:00-15:00	大場裕一	発光生物の科学	様々な光る生き物を紹介し、その発光のメカニズムと最先端研究への応用について解説する。
9 7月31日(木) 10:00-12:00	海老原史樹文	心は遺伝するか？	動物では不安や恐怖などの心の状態を行動で判断することができる。講義では、マウスの行動と遺伝子との関係について、ヒトの心理と遺伝との関係について考える。
10 7月31日(木) 13:00-15:00	上野山賢久	動物生産を科学する	食糧生産、特に動物生産について、現状を紹介しつつ、科学的な解決方法について解説する。

地域包括ケア探究講座

我が国は超高齢社会を迎え、地域医療現場にも時代にあった新たなシステムや考え方が求められています。そのひとつが、「地域包括ケア」と呼ばれるものです。各地域で、在宅医療、訪問看護、服薬指導、リハビリ、介護、福祉から社会活動までをつなげることに、1人1人の住民が、地域で幸せに暮らせる事を目指しています。

定員：15名(5名×3チーム)

申し込み締め切り：7月31日(木)

会場：名古屋大学保健学科(大幸キャンパス)

担当部局：医学部保健学科看護学専攻、医学系研究科地域医療教育学

※この講座では、実際に地域のお宅を訪問します。学外に出ますので、受講者には保険に入ってください。保険料は一人200円程度です。当日徴収します。

日 時	担当教	テ マ	概 要
1 8月20日(水) 9:00-17:00	池松裕子 會田信子 安井浩樹	在宅医療の課題を知る	今回は、高校生のみなさんに、地域包括ケアの考え方を学んでもらうと同時に、実際に地域のお宅を訪問していただき、患者さんやご家族の生の声を聞いてもらい、その声に応える療養計画を考え、発表していただきます。実際のお医者さんや看護師さんから、どんな感想がでるでしょうか？将来、医療系学部希望の人はもちろん、社会系学部、その他志望未定の人も是非チャレンジしてみてください。

人文学探究講座

文学部では、人間のさまざまな営みを通して人間について知ろうとしたり、考えたりしています。過去の、そして現在の人間がどう存在するかを知ることは、未来に向けてもとても大切なことです。先生たちの案内とともに、その広い世界をのぞいてみてください。

定員：50名

申し込み締め切り：7月11日(金)

担当部局：文学部

※全回出席を前提としていますが、1日のみの受講も受けつけます。全回受講した受講生には「修了証」を授与します。

日 時	担当教	テ マ	概 要
1 7月28日(月) 10:30-12:00	大平英樹 (心理学)	感情を紡ぎ出す脳	私たちが日々感じる、喜怒哀楽の感情は、どのように創り出されているのでしょうか？感情的な人と冷静な人は何によって決まるのでしょうか？自分の感情をうまくコントロールするにはどうしたらよいのでしょうか？感情に関する疑問を脳の機能から考えます。
2 7月28日(月) 13:00-14:30	加藤靖恵 (フランス文学)	「星の王子さま」の秘密 —外国文学を原語で読む楽しみ	飛行士としても活躍したフランスの作家サン＝テグジュペリの「星の王子さま」は、読み返すごとに我々にいろいろなことを教えてくれる、いわば聖書のような深みをもった小説です。フランス語の音の響き、文体の工夫、翻訳には表れない微妙なニュアンス、作者の他の作品との関連性など、名大で実際に行った講義の内容を紹介しながら、この作品の魅力に迫ります。
3 7月29日(火) 10:30-12:00	田中智之 (英語学)	歴史的に英語の仕組みを探る	英語学とは、構造・意味・音・形態・歴史など様々な観点から英語について研究し、その背後にある仕組みを探る学問です。本講義では、世界の国際語と言われるようになった英語の数奇な歴史を辿り、現在の英語の姿を見つめ直すことにより、英語を学習する際の助けとなる知識を身につけることを目標とします。
4 7月29日(火) 13:00-14:30	和田光弘 (西洋史学)	星条旗誕生秘話	アメリカ合衆国の国旗、星条旗は、どのように誕生したのでしょうか。建国神話に彩られたその経緯は謎に満ちています。本講義では、関連する史料を実見しながら、最初の星条旗を作ったとされる女性、ベッツィー・ロスのストーリーを紐解き、歴史の虚と実について考えてみたいと思います。

地球市民学探究講座 SSH

名古屋大学教育学部附属高校 スーパーサイエンス・ハイスクール授業の一環公開

定員：若干名

申し込み締め切り：6月24日(火)

グローバル化の中のさまざまな問題—偏見・差別、病気、海外労働、大学など—を取り上げながら、異文化理解の方法や地球市民としてのあり方について考えます。

担当部局：情報科学研究科、愛知大学、環境学研究所、国際言語文化研究所、国際教育交流センター、PhD登壇推進室、教育発達科学研究科、国際開発研究所、南山大学

日 時	担当教	テーマ	概要
1 7月5日(土) 10:00-12:00	齋藤洋典 (名古屋大学)	人間理解の嘘と真	人の身になって考えるとはどういうことか。同じ文化及び異なる文化の背景をもつ人々が互いに理解しあうことの意味とその方法を一緒に考えます。
2 7月5日(土) 13:30-15:30	佐藤良子 (愛知大学)	国民的ステレオタイプ	ステレオタイプとは何か？なぜ人々は他の国民の人たちに対してステレオタイプを持つのか？こうしたステレオタイプには信憑性があるのか？このような質問に答えていきます。
3 7月6日(日) 10:00-12:00	中村秀規 (名古屋大学)	東日本大震災後の持続可能な発展	地球環境問題、そして持続可能な発展とは何でしょうか。東日本大震災を受けて、「わたし」そして「わたしたち」がどのように持続可能な発展を進めていくのか、一緒に考えてみたいと思います。
4 7月6日(日) 13:30-15:30	竹内恒夫 (名古屋大学)	地球温暖化とエネルギーを考える	なぜ、地球温暖化が起こる。なぜ、CO2排出量はなかなか減らない。日本人の7割は原子力発電はいらないと言うのに、なぜやめない？。発電所ではこんなに無駄が大きい。電気の割合が半分を超した家庭のエネルギー消費…。密接に関係する地球温暖化とエネルギーについてさまざまな角度から考えます。
5 7月19日(土) 10:00-12:00	福田真人 (名古屋大学)	世界の病気：その諸相	人間の生涯は、まさに生老病死と概観できる。しかし、生老死という、自然な生物としての推移に比べて、病は多くの人生の障碍となる。天然痘、ペスト、コレラ、エイズ…。しかし、結核だけは特殊な病だった。それはなぜか。人間の生き様を病気と医学から考える。
6 7月20日(日) 10:00-12:00	村山かなえ (名古屋大学)	海外で学ぶ、海外で働く	海外の大学で学ぶとしたら、どのようなことが学べるのでしょうか。海外で働くということは、どのような方法があるのでしょうか。大学・大学院での海外留学経験者による発表を交えながら、海外で学ぶこと、海外で働くことについて学び、将来の生き方を、みんなで考えます。
7 7月21日(月) 13:00-15:00	中村真咲 (名古屋大学)	「草原の国」モンゴルの歴史と現在	「草原の国」と呼ばれるモンゴルは、激動の20世紀のアジアにおいて、中国とロシアという大國に挟まねながらも100年にわたって独立を維持してきた稀有な國です。伝統的な遊牧を維持しつつも、国際政治の最前線で大國と渡り合うという多面的なモンゴルの歴史と現在を一緒に考えていきます。
8 7月22日(火) 13:00-15:00	高井次郎 (名古屋大学)	人種偏見・差別の心理学	人種偏見をもったり、人種差別をすることは良くないとは言ってもありません。でも、なぜわれわれは差別をしてしまうのか。気づかずに、無意識的に差別をしていることもよくあります。人種偏見を心理学的に解明しましょう。
9 7月24日(木) 14:00-16:00	米澤彰純 (名古屋大学)	グローバル化のなかの大学	現在、新興國を中心に世界中で大学生・留學生の数が増え続け、日本の大学も、グローバル人材育成が求められています。変化する世界の大学がどこに向かおうとしているのかを考えます。
10 11月3日(月) 10:00-12:00	サガヤラージ・アントニサミー (南山大学)	インドを見る眼：多様性の中の統一	多言語・多文化・多民族・多宗教の國であるインドの歴史的、社会的、政治的背景をおさながら、インドが抱える諸問題を取り上げ、それらの問題をめぐる動きや葛藤の様相を捉えることで、現代インド社会の今を読み解く。また、女性の自助グループ(Self Help Group)という地域住民による自主的・民主的な活動劇を通して、宗教・カーストの垣根を越え、多様性を認め合って生きる、グローバルな共存(共生)のあり方を考えていきます。

コンピュータ活用探究講座

定員：15名

申し込み締め切り：7月12日(土)

高校の微積分をコンピュータにより実行・可視化し、そのイメージを捉える体験学習講座です。Excel 2007、2010、2013のいずれかをインストールしたノートパソコンを持参していただくと効率よく受講できます。

担当部局：工学研究科

※受講資格：エクセルの使い方を習った人

日 時	担当教	テーマ	概要
1 8月2日(土) 13:00-15:00	古橋 武	高校の微積分が見えてくる！	数学II、IIIの微積分をExcelを用いて実行・可視化します。受講生の皆さんには実際に微積分の公式の多くを描画して体験していただきます。コンピュータによる微積分の描画体験に、紙の上の勉強とは違った新鮮さを感じることで、Excelの使い方を習った人であれば、微積分はまだという人でも、そのエッセンスを体得できるように工夫しています。

インフラ工学探究講座

定員：25名

申し込み締め切り：7月4日(金)

道路・鉄道・上下水道・電力施設・通信施設・堤防・港湾施設・防災施設などのインフラの役割を、近年頻発する地震などに対する防災・減災対策と、社会問題となりつつある老朽化の観点から学びます。安心・安全な生活とインフラ工学の関係を考えてください。

担当部局：工学研究科

日 時	担当教	テーマ	概要
1 7月30日(水) 10:30-12:00 13:00-14:30	中村 光	橋の老朽化と対策	インフラの代表的な構造物である橋を取り上げ、橋が劣化する原因、橋の状態の診断技術、橋を直すための修復技術を紹介。また、名古屋大学の中に世界で初めて作られた点検研鑽用の橋を使って、橋の診断をす臨床実習を行います。
2 7月31日(木) 10:00-12:00	水谷法美	津波のメカニズムと予測	津波とはどのようなものか？津波の高さはどのように決まるのか？津波の高さをどのように予測するのか？津波に関する基礎知識と最新の技術について紹介します。
3 7月31日(木) 13:00-15:00	野田利弘	液状化の発生と対策	どのような場所で液状化が発生しやすいかという発生原因や液状化が及ぼす影響を簡単な実験と最新のコンピュータシミュレーション技術を用いて紹介します。

「学びの杜・学術コース」事後アンケート

2014年 月 日実施

これは「学びの杜・学術コース」() 講座の終了にあたり、参加者の皆さんに回答をお願いするアンケートです。このコース全体の改善に役立てるためのものですので、率直に答えて下さい。

____学年(男・女) (よろしければ) 氏名_____

1. 「学びの杜」受講のきっかけ・動機を教えてください。

2. この講座を受講して最も印象に残った講座内容はどんなことですか？

3. この講座を受講した満足度はどのくらいでしたか？次の項目の中から○をつけて下さい。
<非常に満足 ・ ほぼ満足 ・ 少し不満 ・ 非常に不満>

満足したところ

不満だったところ

4. この講座を受講して、あなたは講座の内容について理解することができましたか？
<非常に良く理解できた・理解できた・以前と変わらない・良く分からなくなった・全く分からなくなった>
また、講座の内容と社会の様々な課題との関わり、講座内容のこれからの可能性などについて考えたことや感じたことを自由に書いてください。

内容について考えたこと感じたこと

5. 講座で学んだ内容を今後学んでみたいという気持ちは高まりましたか？以下の項目の中から○をつけて下さい。
<非常に高くなった・ある程度高くなった・以前と変わらない・ある程度低くなった・非常に低くなった>

学んでみたいと思うこと

6. この講座の受講と大学進学との関係について教えてください。

この講座の内容は、大学で勉強しようと考えている内容と関係が <ある ・ ない>。
「ある」の人→その考えはこの講座を受けて <強まった ・ 変わらない ・ 弱まった>。
「ある」の人→進学志望先は、今回の講座の先生の所属する名古屋大学の学部<である ・ ではない>。
「である」の人→名古屋大学への志望はこの講座を受けて <強まった ・ 変わらない ・ 弱まった>。

質問は以上です。ありがとうございました。